

## 平成30年度「全国学力・学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立 清原東小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、平成30年度「全国学力・学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

### 【調査の概要】

#### 1 目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況等の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

#### 2 調査期日

平成30年4月17日(火)

#### 3 調査対象

小学校 第6学年(国語A・B, 算数A・B, 理科, 児童質問紙)

中学校 第3学年(国語A・B, 数学A・B, 理科, 生徒質問紙)

#### 4 本校の参加状況

① 国語A 61人 国語B 61人

② 算数A 61人 算数B 61人

③ 理科 61人

#### 5 留意事項

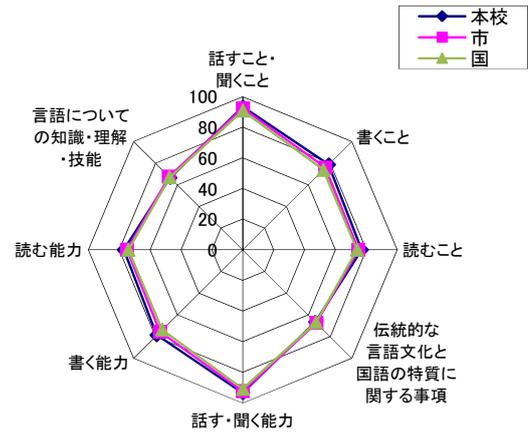
- (1) 本調査は、対象となる学年が限られており、実施教科が国語、算数、理科の3教科のみであることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部分であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

# 宇都宮市立清原東小学校第6学年【国語】分類・区別正答率

## ★本年度の国、市と本校の状況

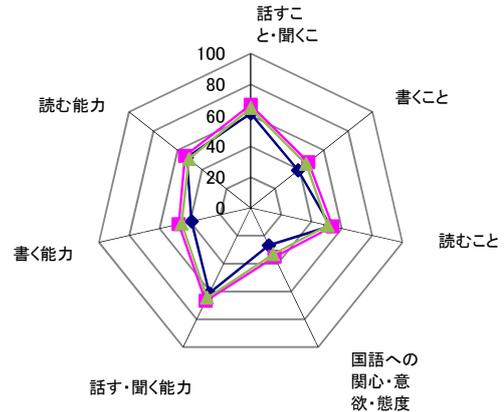
### 【国語A】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	話すこと・聞くこと	93.4	92.4	90.8
	書くこと	78.7	75.7	73.8
	読むこと	77.0	74.9	74.0
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	66.6	67.5	67.0
観点	国語への関心・意欲・態度			
	話す・聞く能力	93.4	92.4	90.8
	書く能力	78.7	75.7	73.8
	読む能力	77.0	74.9	74.0
	言語についての知識・理解・技能	66.6	67.5	67.0



### 【国語B】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	話すこと・聞くこと	61.2	66.8	64.6
	書くこと	39.0	47.4	45.6
	読むこと	52.5	54.0	50.8
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項			
観点	国語への関心・意欲・態度	26.8	35.2	33.2
	話す・聞く能力	61.2	66.8	64.6
	書く能力	39.0	47.4	45.6
	読む能力	52.5	54.0	50.8
	言語についての知識・理解・技能			



## ★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

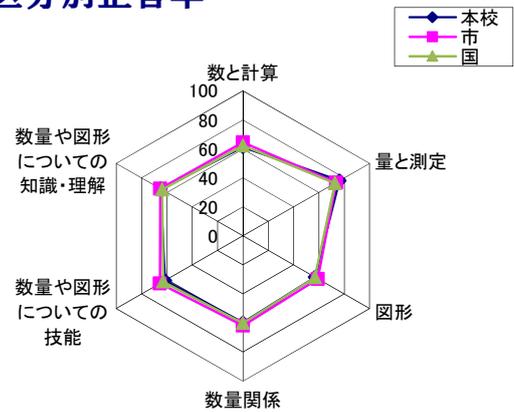
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	<p>平均正答率は、国語Aは全国平均とほぼ同じで、国語Bは全国平均よりも低い。</p> <p>○図書館への行き方の説明として適切なものを選択する問題では、90%以上の児童が正答を選んでいる。普段の会話から、相手を意識して筋道を立てて話をすることや、朝の会での1分間スピーチを実践してきた成果であると考えられる。</p> <p>●話し手の意図を捉えながら聞き、自分の意見と比べるなどして考えをまとめることに課題が見られる。</p>	<p>・今後も、相手や目的を意識して自分の伝えたいことを筋道を立てて話す機会を意図的に設けたり、作文指導などでも取り組ませたりする。</p> <p>・相手を意識して話をすることはできるが、相手の話の意図を捉えながら聞くことや自分の意見と比べながら聞くことは苦手な児童が多いので、普段の生活の中や朝の会、授業中などにおいて「相手の意図を意識して聞く」ことをさせていく。</p>
書くこと	<p>平均正答率は、国語Aは全国平均より高く、国語Bは全国平均よりも低い。</p> <p>○物語を書くときの構成の工夫の説明として多くの児童が適切なものを選択することができたのは、普段から読書を好む児童が多く、物語に触れる機会が多いためであると考えられる。</p> <p>●話し手の意図を捉えながら聞いたり、目的に応じて文章の内容を的確に押さえたりしながら自分の考えを明確にすることに課題が見られる。</p> <p>●目的や意図に応じて、文章全体の構成の効果を考えることに課題が見られる。</p>	<p>・物語を効果的に構成するための工夫を、用意されたものの中からは選ぶことができるが、自分で効果的な構成の工夫を考えることや自分の考えをまとめることが苦手な児童が多いので、日記や作文指導などを通して指導していく。</p> <p>・今後も、読書や読み聞かせの時間を設定したり、本の紹介をしたりして物語に触れる機会を設け、作者がなぜそのように書いたかを考えさせる時間を取るようにしていく。</p>
読むこと	<p>平均正答率は、国語A、Bともに全国平均とほぼ同じである。</p> <p>○目的に応じて必要な情報を捉えたり、複数の本や文章などを選んで読むことや、登場人物の心情について、情景描写をもとに捉える問題は、よくできている。読書を好んでする児童が多く、物語や文章に触れる機会が多いためであると考えられる。</p> <p>●目的に応じて、文章の内容を的確に押さえ、自分の考えを明確にしながらか読むことに課題が見られる。</p>	<p>・物語や文章を読んで、自由に想像を広げることができるが、それを言葉にしたり明確に表現したりすることが苦手な児童が多い。「なぜそう思ったのか」、「どの部分からそれが分かるのか」など、目的に応じて自分の考えを明確にしながらか話をしたり、文章を書いたりする機会を日常生活や作文指導などの中で設けていく。</p>
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	<p>平均正答率は、全国平均とほぼ同じである。</p> <p>○文の中で漢字を正しく使うことは、約70%の児童がよくできている。漢字ドリルなどを活用し、熟語だけでなく文章での練習にも繰り返し取り組ませている成果であると考えられる。</p> <p>●同じ部首をもつ漢字の習得に課題が見られる。</p>	<p>・今後も、新出漢字や既習漢字の繰り返し練習や、簡単な作文などに取り組ませる。</p> <p>・「せつ極的」の「積」の正答率が低いことから、同じ部首をもつ漢字の正しい使い分けができるよう、辞書を用いて漢字の成り立ちや意味調べ、簡単な文の作文指導などを取り入れて身に付けさせていく。</p>

# 宇都宮市市清原東小学校第6学年【算数】分類・区分別正答率

## ★本年度の国、市と本校の状況

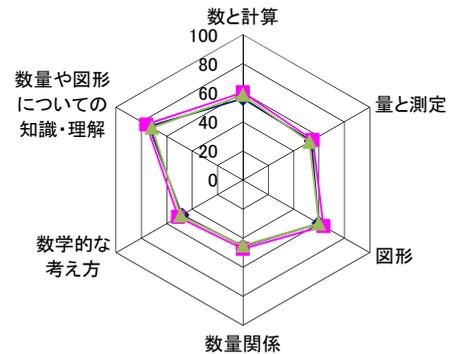
### 【算数A】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	数と計算	61.3	64.5	62.3
	量と測定	76.2	73.6	72.7
	図形	56.8	59.1	56.9
	数量関係	59.7	61.8	60.1
観点	算数への関心・意欲・態度			
	数学的な考え方			
	数量や図形についての技能	61.6	65.5	63.0
	数量や図形についての知識・理解	65.0	65.3	63.8



### 【算数B】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	数と計算	56.0	60.2	58.4
	量と測定	53.7	55.0	52.4
	図形	59.8	63.5	59.9
	数量関係	45.6	47.3	45.1
観点	算数への関心・意欲・態度			
	数学的な考え方	48.1	51.0	49.2
	数量や図形についての技能			
	数量や図形についての知識・理解	73.8	76.2	71.7



## ★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

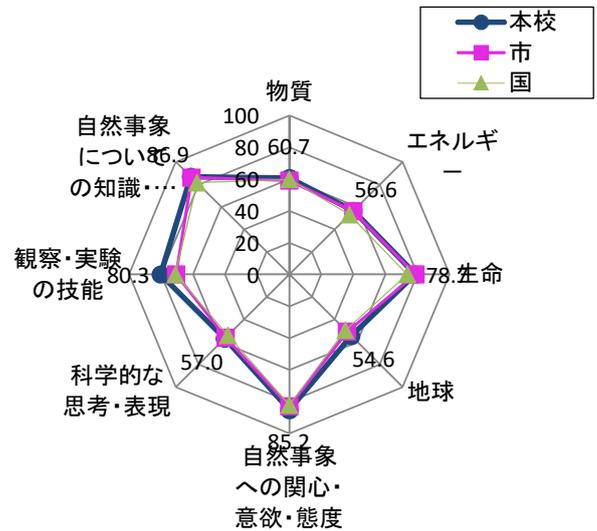
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	<p>平均正答率は、算数A、Bともに全国平均とほぼ同じである。</p> <p>○1に当たる大きさを求める問題場面における数量の関係を理解し、数直線上に表すことがよくできている。問題解決をするときの手段として、数量関係を数直線を用いて考えることを実践してきた成果であると考えられる。</p> <p>●「32, 40」の2つの数の和が9の段の数になることのわけを、分配法則を用いた式に表すことに課題が見られる。</p>	<p>・今後も、問題解決をするときの手段として、数直線を用いて数量関係を視覚的にとらえて考え、立式できるように指導する。</p> <p>・乗法の計算のきまり(交換・結合・分配)について繰り返し指導する。</p>
量と測定	<p>平均正答率は、算数A、Bともに全国平均より高い。</p> <p>○単位量あたりの大きさを求める除法の式と商の意味がよく理解できている。単位量の大きさを求める問題において、2つの数量の関係を数直線を用いて考えることを実践してきた成果であると思われる。</p> <p>○分度器を用いて角度を求めることがよくできている。習熟度別学習を生かして、個に応じた学習を行ってきた成果であると思われる。</p>	<p>・今後も、問題解決をするときの手段として、数直線や図を用いて数量関係を視覚的にとらえて考え、立式できるように指導する。</p> <p>・習熟度別学習を取り入れた個に応じた指導を通して、分度器の使い方など基本的な技能を徹底的に身に付けられるようにする。</p>
図形	<p>平均正答率は、算数A、Bともに全国平均とほぼ同じである。</p> <p>○円の直径の長さが2倍になったとき、円周の長さが何倍になるかを選ぶことがよくできている。直径の長さや円周の長さの関係についてよく理解していると思われる。</p> <p>●円周の長さや直径から、円周率を求めることに課題が見られる。</p>	<p>・円周の長さを求める公式を導く学習では、円周の長さや直径の長さを実際に測る操作的活動を通して、児童が自ら公式を導くことができるようにするなど、実感を伴った学習を展開するように努める。</p>
数量関係	<p>平均正答率は、算数A、Bともに全国平均とほぼ同じである。</p> <p>○一つの事柄について表した棒グラフと帯グラフを読み取り、適切な判断をすることができている。</p> <p>●折れ線グラフから変化の特徴を読み取ることに課題が見られる。</p> <p>●算数Bでは、記述式の問題で4問中3問が国の平均正答率を下回っており、無回答率も高い。</p>	<p>・授業の中に自分の考えを書く活動と伝える活動を多く取り入れ、筋道を立てて説明する力を育てるようにする。学年に応じた説明の言葉の指導も取り入れる。</p> <p>・算数だけでなく、社会や理科などの他教科との関連を図り、グラフの読み方の指導を強化する。</p>

# 宇都宮市立清原東小学校第6学年【理科】分類・区別正答率

## ★本年度の国、市と本校の状況

### 【理科】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	物質	60.7	59.0	59.8
	エネルギー	56.6	56.4	53.1
	生命	78.7	78.6	73.6
	地球	54.6	50.9	49.5
観点	自然事象への関心・意欲・態度	85.2	82.9	82.1
	科学的な思考・表現	57.0	56.1	54.1
	観察・実験の技能	80.3	70.6	71.1
	自然事象についての知識・理解	86.9	86.2	81.5



### ★指導の工夫と改善

○ 良好な状況が見られるもの ● 課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
物質	<p>平均正答率は、全国平均よりやや高い。</p> <p>○ ろ過の誤った方法に気付いて、正しい方法を選ぶ問題では、90%以上の児童が正答を選んでいて、実験の際に誤った方法を紹介し、それを指摘する場面を設けたことがよかったのではないかと考えられる。</p> <p>● 食塩水の蒸発実験から分かることを記述する問題では、全国に比べて無答の割合が高く、言語で表現する能力に課題があった。</p>	<p>・マニュアル通りの実験だけでなく、間違っただけを提示して、その指摘により正しい方法を考えさせるなど、興味・関心を高めることにより実験の技能の定着が高まることが分かったので、今後も機会をとらえて計画的にその場面を設定していく。</p> <p>・言語による表現は、他教科でも課題に挙げらおり、本校でも学習指導の重点として方策を講じてきている。徐々にその成果も現れてきているので、今後も継続していく。</p>
エネルギー	<p>平均正答率は、全国平均より高い。</p> <p>○ この区分の問題は、児童の興味・関心が高かった、「乾電池や光電池と回路を流れる電流」についての問題だったため、4つのうち2つの設問で、正答率が全国平均を大きく上回った。</p> <p>● 実験結果から電流の向きと大きさを指摘する問題では、全国平均を大きく下回った。</p>	<p>・興味・関心が高まれば学習意欲も高まり、それが知識・技能の習得につながるということが分かったので、今後も授業の導入や問題解決の途中等で、効果的な材料や方法を取り入れていく。</p> <p>・課題解決の実験が終了後、「条件を変えたらどうなるのか」「違う方法ではどういう結果が生まれるのか」など、更なる課題を見つけて検証する場面を計画的に設定していく。</p>
生命	<p>平均正答率は、全国平均より高い。</p> <p>○ この区分の問題は、「腕を曲げるための関節や筋肉の役割」に関する内容であった。本校では、小さいながらもヒトの骨格模型がグループ数分準備しており、間近で細かく観察できたことが好結果につながったのではないかと考えられる。</p>	<p>・今後も、効果的な教材をなるべく数多く準備するように努力していく。</p> <p>・今回は人の体の骨と筋肉が問題になっていたが、この分野では、「生命の連続性」が大きなテーマとなっているので、今後も各学年で、「受け継がれていく生命」について意識しながら指導を行っていく。</p>
地球	<p>平均正答率は、全国平均より高い。</p> <p>○ この区分の問題は、「流れる水のはたらき」に関する内容であった。実際に川のモデルを作り、写真やVTRで撮影しながら実験を進め、それを資料として学習を進めたことが効果的であったと思われる。</p>	<p>・観察や実験をした後、それを振り返る方法を今後も工夫し、学習意欲を高めていきたい。</p> <p>・この分野では、月や星の動き方や、観測者と月、太陽の位置関係によって月の見える形が変わることなど、知識の定着に差が出てきてしまう学習内容もあるので、今後も児童にとってより分かり易い教材の工夫を行いたい。</p>

## 宇都宮市立清原東小学校 第6学年 児童質問紙

### ★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「将来の夢や目標を持っている」と肯定的に回答した児童の割合は(93.6%)で9割を超え、昨年度よりも6ポイント高い結果となった。また、県と全国と比べても7ポイント以上上回った。「人の役に立つ人間になりたい」と肯定的に回答した児童の割合も96.8%と県と全国の平均を上回った。自分の将来について前向きに考えている児童が多いことがうかがえる。本校の特徴の一つ、「ふれあい発見ラリー」をはじめとするキャリア教育の成果であると考えられる。

○「算数の勉強は好き」と肯定的に回答した児童の割合は(80.9%)で8割を超え、県と全国と比べても13ポイント高い結果となった。「算数の授業の内容はよく分かる」と肯定的に回答した児童の割合は(93.7%)で9割を超え、県と全国と比べても8ポイント以上高い結果となった。学力向上に向けた学校全体での取組の成果が表れていると考えられる。

○「学級の友達とで話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている」と肯定的に回答した児童の割合は(82.6%)8割を超えた。県と全国と比べても4ポイント以上高い結果となった。ペアやグループでの少人数の話し合いの場の設定がしっかりとされていることが成果に表れたと考えられる。今後も話し合いの質の向上が図れるよう、言語活動の工夫をしていきたい。

●「毎日同じくらいの時刻に起きている」と肯定的に回答した児童の割合は(80.9%)8割を超えたが、県と全国と比べると約8ポイント低い。様々な生活習慣の見直しと併せて啓発していきたい。

●「家で、学校の予習・復習をしている」と肯定的に回答した児童の割合は(66.7%)県の平均を約7ポイント下回った。「学校の授業時間以外に普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどのくらいの時間勉強するか」という質問では、1時間以上(1時間以上2時間未満、2時間以上3時間未満、3時間以上を含める)勉強すると回答した児童は54%で、県と全国と比べると約13ポイントから15ポイント低い。自主学習のやり方を紹介したり、児童一人一人に合った課題の準備したりするなど、家庭学習の充実や習慣化を図っていく。

●「放課後に家でテレビやビデオ・DVDを見たり、ゲームをしたり、インターネットをしたりしている」「週末に家でテレビやビデオ・DVDを見たり、ゲームをしたり、インターネットをしたりしている」と答えた児童の割合はそれぞれ85.7%、87.3%と県と全国の平均を約3ポイント上回る。「学校の授業時間以外に、読書をまったくしない」と回答した児童の割合は22.2%で県と全国の平均を約4ポイント上回っている。「新聞をほとんど、またはまったく読まない」と回答した児童の割合は65.1%で県と全国の平均を約5ポイント上回った。家庭でテレビやゲーム、インターネットに多く時間を費やしている児童が見られる。インターネットとの関わり方について指導していくとともに、家庭での時間の使い方を見直していくよう支援していく。

## 宇都宮市立清原東小学校 (第6学年) 学力向上に向けた学校全体での取組

### ★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
基礎・基本を確実に身に付けさせる指導の工夫	・分かる授業の展開(効果的な発問・助言・指示・課題提示からまとめまでの板書の工夫、教材・教具の工夫等) ・朝の学習の充実	・平均正答率は、国語A・算数A・理科において全国平均を上回った。
家庭学習の習慣化に向けた指導の工夫	・7月と11月と2月に「家庭学習強化週間」を実施し、「家庭学習カード」に学習時間を記入したり、保護者の励ましや助言などを書いてもらったりして提出するよう指導する。 ・学年に応じて自主学習に取り組み、手本となるノートを紹介する。	「家で、学校の予習・復習をしている」と肯定的に回答した児童の割合は(66.7%)で県の平均を約7ポイント下回った。「学校の授業時間以外に普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどのくらいの時間勉強するか」という質問では、1時間以上勉強すると回答した児童は54%で、県と全国と比べると約13ポイントから15ポイント低い。

### ★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
・平均正答率は、国語B・算数Bの記述式問題については、全国平均を下回っており、無回答率も高い。	自分の考えをもち、説明する力を付けさせる指導の工夫	・自分の考えを書く場を多く設定し、「書く」ことの習慣化を図る。 ・根拠を明確にして自分の考えを表現できるように、手順を示すなどして書き方や説明の仕方を丁寧に指導する。 ・学習形態(ペア・グループ)を工夫し、互いの考えを伝え合う活動を多く取り入れる。